

総合研究大学院大学 学融合推進センター 萌芽的研究会

「惑星科学と社会の相互の関係の在り方についての研究会」開催報告

極域科学専攻 准教授 山口亮
学融合推進センター 助教 小松睦美

1. 研究会の趣旨

日本の惑星探査は、過去 10 年間で大きく進展した。昨年も「はやぶさ 2」や「あかつき」探査の成果が新聞等で大きく取り上げられ、社会的な関心も高い。これらの成果は、太陽系の成り立ちの理解に大きく寄与するものであるが、惑星科学を通じて得た結果や技術を、惑星科学の分野に閉じない形で社会へ還元することも重要である。本研究会では、総研大組織である極地研・宇宙研・分子研の研究者が集まり、「物質分析」の立場から社会との相互関係について議論を行い、惑星科学と社会のより良い在り方の発信を目指す。

2. 開催日程

2016 年 1 月 18 日(月)・19 日(火) 独立行政法人海洋研究開発機構 高知コア研究所

3. 参加者

18 名 (内 総研大学生 1 名、総研大入学予定学生 1 名)

4. プログラム

1 月 18 日(月) 13:00-17:00

- ・高知コア研究所の概要 (伊藤)
- ・分子科学研究所での物質分析研究 (大東)
- ・南極探査と物質分析 (山口)
- ・宇宙探査と物質分析 (安部)
- ・スプリング 8 での物質分析 (上杉)
- ・惑星科学と社会との関係について—福島第一原発で放出した放射性粒子分析の経緯と結果— (白井・参加者全員)

1 月 19 日(火) 9:00-12:00

- ・高知コア研究所キュレーション施設見学
- ・装置デモンストレーション

5. 議論の概要

参加者の所属する組織で行っている物質分析について、それぞれの参加者が紹介を行った。惑星科学と社会の連携の事例として、首都大学東京の白井助教に、「惑星科学と社会と

の関係について「福島第一原発で放出した放射性粒子分析の経緯と結果」について講演いただいた。白井助教らは、2011年3月の東日本大震災の際には、日本地球化学会の会長である海老原教授グループメンバーとして、他団体に先駆けて「放射性物質の環境中への放出」に関する日本地球化学会会員のボランティア活動組織を立ち上げ、放射性セシウムの土壌濃度マップ作成に大きく貢献した。本講演では、組織を立ち上げるにあたっての経緯や、分析結果の公開方法について説明があった。参加者からは、社会から関心の高い科学成果をどのように公表してくか、について議論があった。特に、2018年に小惑星 Ryugu に到着予定の「はやぶさ2」の科学成果は世間からの関心も高いと考えられ、惑星科学コミュニティからの一方的な成果発信ではなく、一般社会からの視点も含めた成果公表が求められるとの議論が出た。また、はやぶさ2探査の成果発表のタイミングで、今回の研究会のような機関連係による分析の重要性を発信すべきとの意見も出され、今後本テーマについて継続して議論を行うことが重要であるとの意見で一致した。

6. 学融合公募事業への申請への展望

参加者より、今後も face to face の研究会を持つことで、継続してネットワークを維持・拡大する、またそのためのサポートを総研大の公募事業を活用したい、ということで合意を得た。

ステータス	氏名	所属	職名等	1月18日	1月19日
総研大教員	山口 元	総合科学研究科 極域科学専攻	准教授		
総研大教員	今津 直也	総合科学研究科 極域科学専攻	助教		
総研大教員	安部 正真	物理科学研究科 宇宙科学専攻	准教授		
総研大教員	大塚 麻治	物理科学研究科 機能分子科学専攻	助教		
総研大学生	長武 正樹	総合科学研究科 極域科学専攻	学生(3年)		
	伊藤 元雄	JAMSTEC 未知コアセンター	主任技術研究員		
	富岡 尚哉	JAMSTEC 未知コアセンター	主任技術研究員		
	牛久保孝行	JAMSTEC 未知コアセンター	技術研究員		
	唐牛 誠	JAXA宇宙科学研究所	研究員		
	上村 真之	JAXA宇宙科学研究所	研究員		
	上杉徳太郎	高輝度光科学研究センター(JASRI/SPRING-0)	副主任研究員		
	金丸礼	岡山理科大学4年	総研大入学生		
	白井直樹	首都大学東京	助教		
	Hubet	首都大学東京	研究員		
	長永植	(株)マリンワークジャパン	課長		
	山本英樹	(株)マリンワークジャパン	課長		
	児玉慎	(株)マリンワークジャパン	課長		
総研大教員(岡山)	小松 勉典	宇根台推進センター	助教		